

東北大学史料館 春の特別企画

東北帝国大学と 女子学生

—展示ガイド—



2002年

3月1日(金)～5月2日(木)

3月17日(日)・4月20日(土)も開館

東北大学史料館

Tohoku University Archives

<http://www.archives.tohoku.ac.jp>

資料協力 日本女子大学成瀬記念館

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

「東北帝国大学と女子学生」

東北大学は、日本で始めて、女性を正式な「学生」として入学させた大学です。

大正2年(1913)に3名の女性が入学して以降、戦後女性にも男性と同様の資格で大学入学が認められるまで、女性の進学できる大学の代表的な存在として、東北帝国大学には、学問を志す多くの女性が全国から集まっていました。

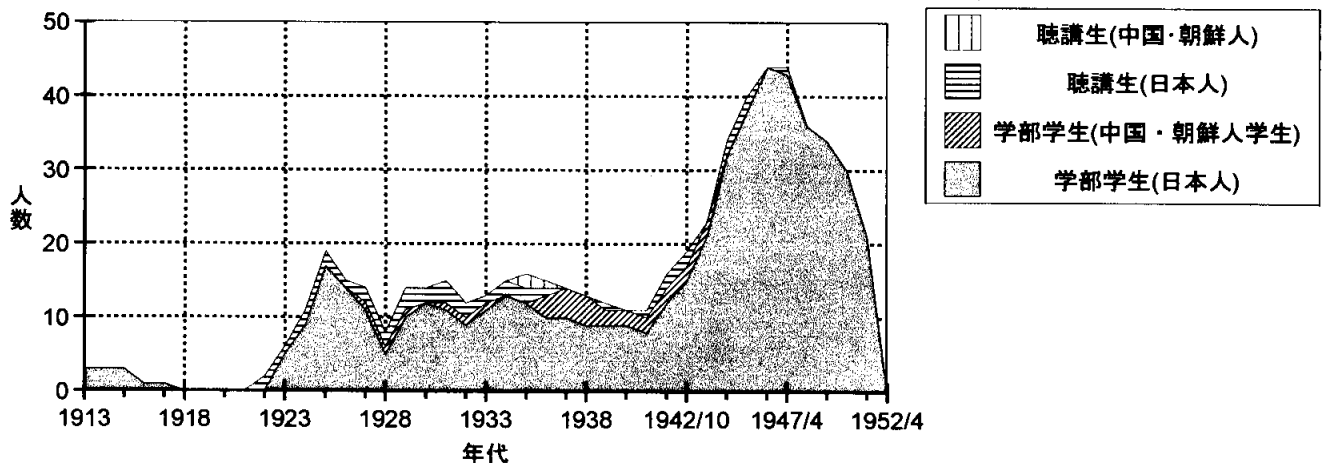
男女の教育制度が明確に区別され、大学が基本的に男子の進むべき学校として位置づけられていた当時、なぜ東北大学が女性の入学を認めたのか、また学問を志す女性たちが東北帝国大学にどのような思いを抱いて入学し、どのような学生生活を送っていたのか。これらの点を解き明かすことは、現代における男女共学のあり方、大学のありかたを考える上でも、意味のあることだと思います。

今回の展示で、当時の写真や資料を用いて、この点を読み解くための「ヒント」をご提供できればと思います。ごゆっくりご覧ください。

2002年3月

東北大学史料館

東北帝国大学・旧制東北大学の女子在学者数(学部生・聴講生)



展示内容

I 女子学生の誕生—大正初期—

1913年(大正2)8月、創立まだ3年目の東北帝国大学で、日本初の女子大学生が誕生した。

帝国大学への門戸が旧制高校の卒業者のみに開かれていた当時、旧制高校とは無縁の存在である女性が帝国大学に入学することは前代未聞の出来事であった。しかし3番目の帝国大学である東北帝国大学は、旧制高校の外からも優秀な人材を確保することで、東京・京都といった既存大学への対抗をはかったのである。女子入学もまた、創立間もない東北帝国大学が優秀な学生を確保するために編み出したアイディアの一つであり、時代を先取りした実験であった。大学とは正式には帝国大学のみを指していた当時、3人は日本最初の女子大学生として、世間の注目を広く浴びることとなる。



- ・女子出願者の入学に関する文部省専門学務局長の照会(右上) (北條総長宛) 大正2年8月9日 当館蔵
 - ・沢柳政太郎総長談話「東北大学に女子を入学させる」 明治45年(1912)11月4日 東京朝日新聞記事
 - ・牧田らく外1名入学に関する件回答案 (東京女子高等師範学校長宛) 大正2年5月 当館蔵
 - ・奈良女子高等師範学校からの入試問題に関する照会 大正2年 当館蔵
 - ・化学教室雑誌会通知—黒田子力の発表 大正5年 当館蔵
 - ・大正5年卒業生送別会における北條総長の演説条目 大正5年7月 西田幾多郎編『廓堂片影』より
 - ・理科大学化学科大正3年、数学科大正5年卒業記念写真 当館蔵
 - ・丹下ウメ 成瀬仁蔵宛書簡 大正7年7月 日本女子大学成瀬記念館蔵
- ほか

II 女子帝大生の学生文化—大正末～昭和初期—

3人の入学後しばらく途絶えた女子入学であったが、法文学部が創設された大正末年以降は、継続的な女子学生の受入れが行われるようになる。大正期における女子高等教育の整備・充実に伴い、この頃から九州帝大など他の大学でも、本科生または聴講生等として帝国大学を志望する女子学生の受入れをはじめた。しかしその中で最も多くの学生を受け入れていたのは、やはり東北帝国大学であった。こうした中で全学女子学生の親睦組織「芝蘭会」が誕生、“女子帝大生”の存在が東北帝大の中に根付いていくこととなる。



- ・芝蘭会会合時の集合写真(右上写真) 昭和11年春 森岡美子氏提供
 - ・東北帝国大学における女子在学者調 大正11年9月 当館蔵
 - ・理学部数学科卒業記念写真-6名の女子学生- 大正12年 当館蔵(林義昭氏旧蔵)
 - ・東北帝国大学法文学部入学者心得 昭和11年 当館蔵
 - ・芝蘭会会員名簿 昭和15年 当館蔵
 - ・女子学生集合写真 昭和11年前後 梶井幸代氏提供
- ほか

Ⅲ 戦時下の大学と女子学生—戦中期—

帝国大学が戦時体制の中に大きく取り込まれていく1940年代は、一方で帝国大学の女子学生数が確実に増えていった時代でもあった。東北帝大でも1943年には初めて女子学生数が20人を突破し、翌年には30人を越える。多くの学生が学徒兵として去っていく中で、女子学生たちは大学を支える重要な存在であった。しかし戦局の悪化に伴う勤労働員の強化によって、やがて彼女たちも学問の場から引き離され、軍事工場等へと駆り出されていく。

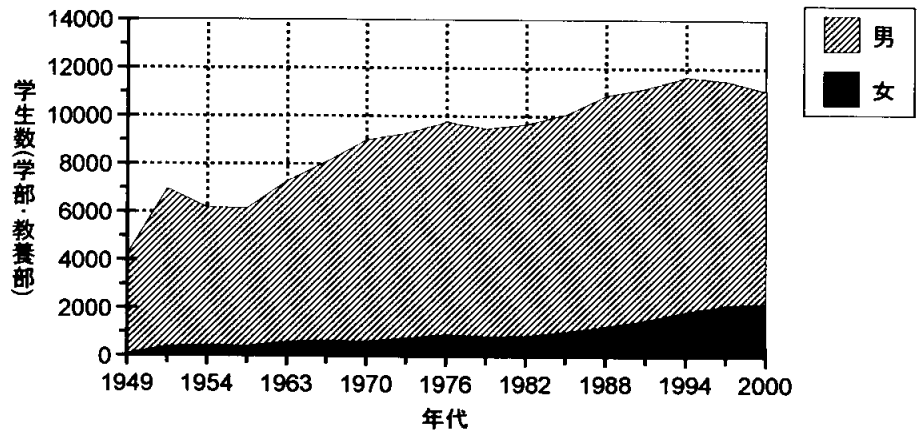


- ・「春樹集」—勤労働員学生の回覧歌集（写真） 昭和20年 当館蔵
- ・学徒動員便覧 昭和19年 当館蔵
- ・中島飛行機伊勢崎工場勤労働員関係資料 当館蔵(石崎政一郎教授旧蔵)
 - 東北帝大報国隊伊勢崎隊 内務日誌簿
 - 女子学生関係伊勢崎視察報告 昭和20年1月
- ・昭和21年9月 法文学部卒業女子学生記念写真 当館蔵(原田夏子氏提供)
 - ほか

Ⅳ 女子学生新時代 —新制大学へ—

終戦と同時に、旧制高校—帝国大学という男子中心の大学入学制度が変更され、東大・京大等においても女性の正規学生としての入学が認められるようになる。もっとも東北帝国大学の女子学生数増加は、戦中期からの傾向を継承するものでもあった。1917年には新設の農学部にも1名の女子学生が入学。こうした女子学生数の増加の中で、女子学生親睦組織としての芝蘭会は実体を失い、姿を消した。

新制東北大学における男女学生数



そして1949年、新制大学の発足とともに、41名という数の女子学生が、新制大学の教養部生として入学してくる。そして彼女たちが卒業する頃には、全学の女子学生数は400名を越え、医学部や工学部といった学部にも女子学生の姿が見られるようになる。

- ・東北大学に家政学部設置要望意見書 昭和23年8月 当館蔵
- ・農学部生活科学科関係資料 当館蔵
- ほか

「東北帝国大学と女子学生」展示目録・解説 2002年3月 東北大学史料館発行
 表紙 写真：昭和11年前後の東北帝大女子学生(梶井幸代氏提供) イラスト：風間亜紀子